



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2024/03/26

あっさり黙示録 #74

新しいエルサレムの大きさ ダンテから永井豪まで魅了した黙示録？

黙示録 21章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録**の74回目！
今、終末論のゴールである新天新地の首都、新しいエルサレムについて、聖書の説明を解説しています。これこそ終末論のクライマックスですよ。
今日は新しいエルサレムの大きさ、サイズを見てみます。

私が小学生の時、本当にのめり込んだ漫画がありました。
『少年マガジン』に連載されていた『デビルマン』です。
作者は永井豪（ながい ごう/1945-）。彼はそれまで、どちらかというエッチな漫画を描いてました。『ハレンチ学園』や『あばしり一家』。
小学生って、なんか下ネタに妙に反応してしまって、ガハハ！と笑ってね。



ところが『デビルマン』は、そんなおちゃらけたコメディの面が一切無い。これね、壮大な終末論の漫画だったんです。
今でもストーリー覚えてますよ。
主人公は不動明（ふどう あきら）。
多分、不動明王（ふどうみょうおう）から取ったと思いますよ。

デーモンという、人間と合体できる悪霊の一族がいます。
デーモンが人間と合体して、人間の体に乗っ取って悪を行っていくのですが、それを阻止するために、不動明は体に乗っ取られながら、しかし心は正義の心でデーモンを押さえつけ、デーモンが持っている超能力を手に入れ、その使い道は彼自身がコントロールするという。これが『デビルマン』です。

これは悪魔を正義のヒーローにした漫画ですが、その後のストーリーがもう壮大で、逆転逆転また逆転。最後は人類を巻き込んで、悪魔の軍勢と神の軍勢の激突というところで終わるんです。そのストーリー展開があまりにも大きすぎる。意表を突く。

いったいどんな頭脳の持ち主かと思って、長い手紙を永井豪先生に書きました。
そしたら、うちに年賀状来たんですよ。永井豪の年賀状。
ダイナミックプロダクションズという印刷されたものですが、おそらく永井先生の直筆で「『ダンテの神曲』と『黙示録』を読めば分かります」と書いてありました。

『ダンテの神曲』知らんし、『黙示録』もよう分からなかったんですけど、中学に入った時、この2つにチャレンジしたんですね。
『ダンテの神曲』読んだけど、最後まで読み通せませんでした。挫折しました。

『ダンテの神曲』は『地獄篇』『煉獄篇』『天国篇』の3部作です。



『地獄篇』でダンテ自身が、地獄に落ちて苦しんでいる人たちを見て回るんですが、登場する人たちは私が知らん人ばかり。聖書を読んでたら「あの人、この人」なんですが、そんな知識もなかったのだから、とにかく怖い本。

『煉獄篇』『天国篇』はなんかつまらない。

今でも覚えてますが、『天国篇』よりも『地獄篇』の方がはるかに迫力あります。やっぱり、苦しみを描写する方が迫力満点で書けるんですね。天国って、行ったことないでしょ。苦しみて、現世の中で散々味わうじゃないですか。だから、苦しみは色々な表現で描写できるけど、経験したことがない天国について書くと、なんかボンヤリしててね、何書いてあったかよう覚えてません。

覚えてないということは印象に残らなかったんだと思いますが、天国がなぜピンとこなかったのか。行ったことがないというだけではなく、黙示録で語られている天国の素晴らしさや凄さについて、彼にあまり学びがなかったからじゃないかなと思います。ダンテ大先生を上から目線で言うのはなんでございませぬが、やはり黙示録は、最後になればなるほど味が出て来ますよね。

私たちが最終的に行くゴールが書いてあるので、「黙示録、難しいから学ぶのやめよう」と言うのは、「聖書の中の一番おいしい部分を食べ残しましょう」と言うのと同じ。こんなもったいないことはない！

ということで、新天新地の首都、新しいエルサレムについて考えます。

黙示録 21 章

15 また、私に語りかけた御使いは、都とその門と城壁を測るために金の測り竿を持っていた。

16 都は四角形で、長さとは幅は同じである。御使いが都をその竿で測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。

17 また城壁を測ると、百四十四ペキスあった。これは人間の尺度であるが、御使いの尺度も同じであった。

新しいエルサレムの形とサイズが書いてありますね。

形は四角形。キュービック。正方形。一辺の長さは一万二千スタディオン。

メートル法では 2220 km。これをキュービックにすると $2220 \text{ km} \times 2220 \text{ km} \times 2220 \text{ km}$ で 110 億 km^3 。月の体積が 220 億 km^3 なので、新しい都の体積は月の半分。

そして、高さ 2220 km はエベレスト山の 250 倍。途方もなくデカイ。

地球の体積の 1/4 が月の体積なので、月の体積の半分が新しいエルサレムなら、新しいエルサレムは地球体積の 1/8。これが天から下りて来て地球とドッキングする。これが新天新地です。想像できますか。

新天新地は、立方体の新しいエルサレムが地球とくっつく世界なんですね。

ところで、立方体というと、聖書に精通している人なら、すぐにピンと来る空間があるんですね。それは幕屋や神殿の奥の間である至聖所です。この至聖所に契約の箱が安置されていました。至聖所は縦・横・長さが同じ立方体で、天にあるものの写しと影、コピーだと書いてある。つまり、本当の天というのは、実は新しいエルサレム。それこそが天国の正体。新しいエルサレムという立方体が下りて来て、地上とドッキングする世界が新天新地なんですね。

天が地よりも高いように、神の考えは人間よりも高い。今は天と地は離れている。しかし、天と地の間に隙間なくドッキングする。新しいエルサレムとの間には土台石があるので、ちゃんとはまってるんです。地面にカパッとハマっている世界がやがて来る。これ広いですよ。大きいですねえ。

なぜこんなに大きな都が必要なのか。それだけ大勢の人々がそこに入ると考えたら励まされませんか。天国に入る人って、日本のクリスチャン人口を見ると、ほんのチョビっとなんかしかないと思うかもしれません。しかし、中絶されて、この世界での人生を生きることもなく息絶えた赤ちゃんたちや、幼い時に亡くなった子供たちも含め、新約聖書以前に、ただ創造主を信じて神の前に義と認められた多くの人たち、その中には日本人の先祖もたくさんいると思いますよ。そういう、私たちの考えが及ばない、大勢の人たちがいる世界が新しい都エルサレムなんです。

そこは透き通った透明の世界です。神様の栄光が現れる世界が幕屋でした。幕屋の中に神の栄光シェキナーが現れるんですが、幕屋は4枚の皮で被われているので、中に神の栄光がどんなに充満していても、外からは見えません。しかし、エルサレムは透き通っているので神の栄光が丸見え。神の栄光を遮るものが何もない。神の栄光を目の当たりに浴びることができる都がエルサレムなんです。この大きさは神の愛の大きさ、広さ、高さ、深さを、私たちに実物で示してくれているようにも思います。

ついでに言うなら、今狭いアパートでこの「ごうちゃんねる」を見ているクリスチャンの皆さん、ガッカリしないでください。最後に行く所はここですよ！クリスチャンって、最後に一番良いものが待っている人たちのことです。その人生の中に、すべての人が招かれています。イエス・キリストはあなたをこの都に入れるために、ご自分の一つしかないいのちを惜し気もなく献げてくださいました。どうぞイエスをご自分の救い主と信じ、クリスチャンになってください。心からお勧めします。

チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。お元気でいらしてください。さよなら！

—*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*-----*

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017